



森林のコーヒー民間をまきこむメカニズム

レインフォレスト・アライアンス
日本市場代表

堀内千恵子

エチオピアの野生種コーヒー

アフリカのエチオピアは、コーヒー発祥の地ともいわれ、未だに野生種が残っている。しかし急激な人口増加と森林伐採などにより、森林面積が急激に減少し消滅の危機に瀕している。そのため、JICA（国際協力機構）が2003年より、オロミア州ベレテ・ゲラ森林優先地域を対象とした「ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画プロジェクト」を実施している。通常の森林保護ではなく「参加型」を採用することにより、従来森林保護のために排除されていた住民が、「参加」し森林保全を両立させる森林管理方法を採用することになった。

具体的には、(1)集落ごとに農民が森林管理組合を設立すること、(2)組合ごとに話し合っで決める森林管理計画を含む森林管理契約を締結・実施することを支援した。ただ、森林管理設立し管理計画をたてても、地元住民にとってはあまり利益にならない。そこで、(1)レインフォレスト・アライアンス認証の取得と市場開拓による収入向上支援、(2)改良農業技術やアグロフォレストリーを紹介する農民学校の実施を行った。

国際認証のひとつであるレインフォレスト・アライアンス認証を取得したことをきっかけに、エチオピア国内でも数少ない「森林内に自生する森のコーヒー」として日本に輸出されることになった。兼松株式会社、UCC上島珈琲株式会社等を通じ、日本でもベレテ・ゲラコーヒーが販売され、官・民・NGOが連携した、効果的な実例となった。

レインフォレスト・アライアンス認証とは

レインフォレスト・アライアンスは、国際的な非営利環境保護団体で、その使命は生産者、事業者、消費者等人々の持続可能な生活の確保と生物多様性の保全である。従来の環境保護団体とは異なり、森林資源を保全しながら住民が持続可能な生活ができる、つまり自立した生計がたてられる農業、林業、観光業等を推進している。また、そのために市場の力を利用している。

このレインフォレスト・アライアンスの名を冠

した認証は、環境・社会・経済という3つの柱を中心とした基準を満たす農園に与えられる。具体的には農園の土壌・水・生態系・野生生物の保全、廃棄物や化学薬品の管理、労働者の労働条件、その家族・共同体を含めた生活向上等の約100の具体的な基準が設けられている。監査を受け、必要条件を満たせば認証を受けられる。

レインフォレスト・アライアンス認証と市場

レインフォレスト・アライアンス認証の特徴としては、まず包括的で厳しい基準があげられる。生物多様性を保全するため、生態系や野生生物、原生種に対する要求事項も多い。認証対象は家族経営の小規模な農家から大規模プランテーションまで制限はなく、作物もコーヒー、紅茶、カカオ、バナナといった熱帯の主要な農産物を始め、切り花、畜牛、スパイス等幅広い作物に対応している。中南米を始め、アフリカ、東南アジアと生産国が広がっており、2012年末で40カ国以上に認証農園がある。

認証農園産の作物はトレーサビリティシステムによって管理され、最終製品に緑のカエルマークがつくことにより、認証農園産であることが一目でわかるようになっている。こういった特徴が調達事業者や購入者に支持され、世界の2000以上の企業がレインフォレスト・アライアンス認証農園産の作物を原料として使用・販売している。また欧米を中心に、100%レインフォレスト・アライアンス認証農園産に切り替えるなどの公約を上げる企業や、農園が認証をとるための金銭的、物的支援をする企業も増えている。このような市場の力によって、認証農園は持続可能な農園経営ができるのである。



レインフォレスト・アライアンス認証マーク